

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年3月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年3月8日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 122社
- 回収率 61.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より6.5ポイント改善の▲24.5となった。

2017年9月以来67ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲24.5、当月と比べ横ばいが見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	先行き見通し 2023年4月～ 2023年6月
業況	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲24.5
売上	14.4	3.9	▲11.7	▲5.5	▲8.0	▲4.9	▲4.1
採算	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲19.6
仕入単価	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.1
販売単価	32.8	37.3	33.6	29.3	31.8	29.5	31.1
従業員	40.8	40.5	35.2	31.7	30.9	31.1	27.0
資金繰り	▲10.4	▲11.9	▲14.8	▲15.1	▲18.2	▲17.2	▲21.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	先行き見通し 2023年4月～ 2023年6月
建設	▲38.7	▲35.5	▲53.1	▲51.8	▲65.5	▲53.6	▲46.4
製造	▲25.9	▲13.8	▲28.6	▲19.3	▲27.6	▲32.1	▲25.0
卸売	▲10.8	▲21.4	▲20.0	▲7.4	▲16.7	▲10.3	▲17.3
小売	▲16.6	▲11.8	▲25.0	▲18.7	▲29.4	▲11.1	▲16.6
サービス	4.7	▲19.1	▲40.9	▲17.4	▲9.5	▲5.3	▲10.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・資材価格の高騰、下請業者施工費の高騰により利益率が低下。（総合工事） ・工事受注量は、先月調査と同様、引き続き戸建てを中心に前年同期および向こう3か月ともに減少傾向が続いており上向く気配は感じられない。よって売上高確保のため技術力を有しているが、手がけていない分野への営業活動を行いつつある。また4月の定昇とベースアップを決定したことにより人件費が増加することから、取引価格の値上げ交渉をした結果、多少の売上転嫁は望めそうである。コストアップに見合う売上転嫁は難しく、今後の業績は厳しさが続く予想している。その中でも、人材については将来を見据え即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他） ・今後、住宅新築の受注減少が予想されるため、同業他社との競争が激化することが必至であり、価格ではなく、ユーザーに寄り添った丁寧な提案により受注増加を図っていく方針である。大工不足が続いており、賃金アップや福利厚生面の充実を図り、新卒はもちろん中途採用に積極的に取り組んでいく。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入原材料の値上げは、今まで年1回あり、ある程度商品への価格転嫁できたが、1年もたたずに一部の原材料の再値上げをしたため、すぐに価格転嫁すると取引先への引き合いの減少につながりかねない。今後資金繰りの悪化の影響が考えられる。（食料品） ・毎年、年度末までに納品が集中するが今年は延びるものが多く4月に入ってから納品もあり売上の月ツレがあるが、売上は前年並みの模様。（印刷・出版） ・商品の全面リニューアルを行い、単価を高め設定しているため、順調に販売が伸びれば採算は改善される予定。（家具・木材） ・仕入れ材料は上昇傾向だが、仕事の見通しとして1年先まで引き合いができてきている。（金属業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・一時の円安よりは落ち着いたが、それでも原材料価格は落ち着いていないため、仕入れ価格の上昇はこれからもしばらく続くこととみている。どこまで市場が許容していくかが、コスト削減など価格を維持できるだけの努力が必要と感じている。（繊維・衣服） ・賃金規定に関連して旧来の賃金手当を一部見直した。（飲食料品） ・燃料価格の高止まり、仕入れ価格の上昇もあり、採算的には昨年に比べ若干厳しい状況となっている。（機械鋼材） ・当月の業況については、昨年契約を交わした自治体からの入金があり、売上は増加。その他の顧客動向についても前年と比較して微増に推移している。今後営農者の繁忙期にあたり、新たな需要が発生するものと思料する。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・3月は衣替え(春服)シーズンですが新卒者(進学・入社用のスーツ)の来店客が多くない。ネットにて手軽に洋服を購入出来るため店舗へ行かなくても良いのかもしれない。売上は昨年のコロナの影響で厳しいが、さらに厳しくなっている。（衣服身回品） ・コロナからの回復基調が継続し、現在も対前年同月で増収傾向。最終的には5月連休明けまでこの状況が継続するものと思われる。相変わらず、取引業者からの原材料費値上げが継続しており、弊社商品値上げで対応するも追いつかない。世の中は賃上圧力が強く弊社も人員確保のためにも今春はベースアップを予定。ただ、人手不足感が継続しており今期も厳しい状況。人件費・原材料値上げ・光熱費高騰で今期は利益確保に苦労しそう。（食料品） ・雪解けも早く、タイヤ交換・コーティング等、春商戦に期待。今年こそコロナ前の売上水準に戻るだろう。（その他） ・仕入れ価格が高止まりしている状況であり、大変厳しい状況が続いていくように思われる。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナも落ちついてきているため、旅行者も増加している。外国人観光客も増えつつあり全国旅行支援も行っているため、今後に期待したい。（ホテル・旅館） ・新型コロナウイルスの影響で中止していたリゾート開発計画が一気に動き始めた。（その他） ・コロナ前に戻って来た感触がある。ただ、食材の値上げは続いており、販売価格を上げてても利益率は下がる一方。（飲食） ・コロナ禍からの回復は人流の戻りという形で収入増になっている。雪解けが思いのほか早いことから徒歩・自転車での移動が増えてくると減収傾向になることが懸念される。コロナによる借入金の増大が返済負担増に直結してきており、資金難が続く見込み。人員不足に対応した事業計画に見直しを迫られ、賃金上げも大きな課題。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI19.6 ポイント改善、採算 DI19.0 ポイント改善、仕入単価 DI0.7 ポイント改善、販売単価 DI6.7 ポイント悪化、資金 DI2.6 ポイント改善、従業員 DI4.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 11.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 5 ポイント、建築業 33 ポイント改善となった。木材単価は下落傾向にあり、売上も多少の減少が予想される。仕入単価の上昇は落ち着きつつも、まだまだ高止まり状態との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI24.9 ポイント悪化、採算 DI11.7 ポイント悪化、仕入単価 DI2.5 ポイント悪化、販売単価 DI9.2 ポイント悪化、資金 DI6.8 ポイント改善、従業員 DI2.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.5 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 35 ポイント改善、金属窯業他横ばい、食料品 14 ポイント、家具・木材 25 ポイント悪化となった。4 月より木材チップの加工量が前年比減の予算。2 工場の従業員募集に対して応募がないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.6 ポイント改善、採算 DI23.3 ポイント改善、仕入単価 DI1.0 ポイント改善、販売単価 DI5.2 ポイント改善、資金 DI6.3 ポイント改善、従業員 DI7.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等、機械鋼材横ばい、食料品、その他 11 ポイント改善となった。定昇・ベースアップによる人件費の増加と光熱費の高騰による収益の圧迫が今後見込まれるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI11.8 ポイント改善、採算 DI12.7 ポイント改善、仕入単価 DI2.5 ポイント改善、販売単価 DI0.7 ポイント悪化、資金 DI0.6 ポイント改善、従業員 DI13.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 18.3 ポイント改善となった。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 27 ポイント、自動車 20 ポイント改善となった。観光客が少しずつ増えてきているように感じるが、コロナ禍前までには戻っていないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.9 ポイント改善、採算 DI9.5 ポイント悪化、仕入単価 DI8.2 ポイント改善、販売単価 DI3.5 ポイント改善、資金 DI18.3 ポイント悪化、従業員 DI0.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.2 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング 100 ポイント、運送 50 ポイント悪化、その他横ばい、ホテル・旅館 50 ポイント、飲食 37 ポイント、整備業 50 ポイント改善となった。借入金の返済が始まったため、今後の運転資金の支払いに行き詰まり感があるとの声も寄せられている。</p>